

“冬本番”

本貫気別山(653.9m)に登る

日時：H29年11月26日(日)

天候：曇り時々雪 風弱し

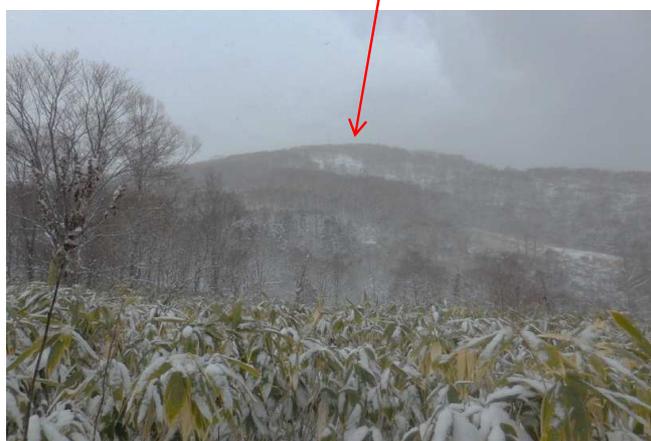
参加者：15名

山に行く時は、数日前から天候が気になる。
特に今の初冬期、装備は、服装はと、気象情報を見ながら揃える。
今回は、スノーシュー+軽アイゼン、スキーストックそしてビーコンを忘れずに準備する。

7時30分 伊達道の駅集合。
8時30分 途中から白くなった景色を見ながら登山口P着。
9時20分 今年度初のスノーシュー装備、ビーコン操作確認し出発、雪は15cm位の積雪、間もなく眼前に白壁二階建て別荘風建物と平屋の二棟が見える、どこかの会社の保養施設・・・看板、標示も無く、どことなく「不思議感」を漂わせる。



本貫気別山



建物の横から山道に入る。
足元にも、遠方にも広がっているのは、雪が不足な笹ヤブだ。
ガシ、ガシ、ガシ・・・とスノーシューで笹ヤブを踏みつけ歩くが、ジャマなのは笹、竹ばかりでなく時々、木のツルがスノーシュー、ストックに絡み、思うようには進めない。
「あの丘まで行ったら雪だよ」と、お互い気休めのように言うが、その丘に着くと、また同じ笹ヤブが続き、結局頂上まで笹ヤブ行進だった。



12時00分 山頂着。

曇り空の中に洞爺湖全景が墨絵のように広がっていた。

12時20分 山頂発。

下りはスノーシュー跡をなぞり、またガシ、ガシ、ガシ・・・と
笹、竹、ツルに足を取られながら歩く。

13時30分 登山口Pに到着。



1回目転倒「だれ」



2回目転倒（3回目は？）



※ 今回の山は、初冬期の山をスノーシューで笹ヤブを踏みつけて歩く苦行のような山行だった。
しかし、降りてしまえば身体に心地良い疲労、達成感があり、まさに体力増進、増強の山行になった。

そして、山行後の温泉は、感謝、至福の時を与えてくれる。
途中、帰り道豆腐購入し帰路につく。

山、温泉、豆腐と有り難く
「ごちそうさまでした」

記録 谷 郁子 写真 1730